

近年、定着が確認されたスパルティナ・アルテルニフロラに関する情報

スパルティナ・アルテルニフロラ *Spartina alterniflora**

* 遺伝的な分析から、*S. foliosa* との浸透性交雑系統の可能性もある。

定着場所と侵入経路：愛知県（豊橋市の梅田川と山崎川、田原市の紙田川と汐川、半田市の阿久比川）は 2008 年以前、熊本県（熊本市の坪井川と白川、宇城市の大野川）は 2009 年以前。海外では、塩沼地の回復や土壌の浸食防止に利用されるが、日本での利用に関する情報はない。その他の侵入経路としては、パラストへの混入などが考えられるが、現状では不明である。

原産地と分布：北アメリカ原産、南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリなど、世界各地に分布する。

分類：イネ科のスパルティナ属。IUCN ワースト 100 で特定外来生物に指定されているスパルティナ・アングリカ *S. anglica* は、本種がイギリスに非意図的に導入され、イギリスの在来種 *S. maritima* と交雑して形成された不稔性雑種 *S. × townsendii* が倍数進化して生まれたとされる。

生態的特徴：汽水性の多年生草本で、海岸近くの河口域、塩沼地、干潟などで生育する。高さ 0.4~1.2 (2.5) m。密生した株を形成し、一度形成された株は、根茎を周りに広げながら、毎年 1 m 以上も生長する。開花期は 9 月~10 月で、種子で繁殖し、分布を拡大するとともに、根茎や植物体の切片からも再生する。

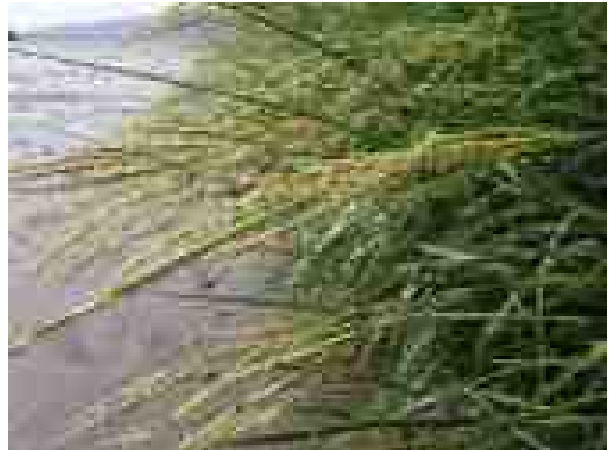
生態系への影響：特定外来生物のスパルティナ・アングリカと同様に、希少な環境である汽水域の在来植物と競合するとともに、干潟で生活する動物にとっては生息場所が消失するおそれがある。具体的には、汽水域に生育するシバナやハマサジ等の植物と競合し、駆逐するとともに、カニ類、魚類、貝類、水鳥等の動物の生息環境を激変させる、

産業への影響：水産業（貝類の養殖等）へ影響を及ぼすおそれがある。船舶が航行する水路や入り江の障害となる。

対策：海外では、刈取りや抜取りといった機械的防除の他に、グリフォサートを用いた化学的防除、プラスチック製のシートで覆う物理的防除、周辺を堤防で囲う生態的防除、昆虫などを用いた生物的防除が行われている。愛知県と熊本県では、これまでに刈取り、抜き取り、掘り取り等が実施されている。足場が悪い場所で、昼間の干潮時にしか作業ができず、抜き取った株には水分を含んだ泥が大量についているため人力では少量ずつしか運搬できない等で、作業は難航している。駆除後のモニタリング調査の結果、ごく小さな株を徹底的に掘り取った場所では根絶できたが、刈り取りや抜き取りをした場所では、再生することが確認されている。



生育状況(2011.10.13 / 愛知県豊橋市梅田川)



開花状況(2011.9.27 / 熊本県宇城市大野川)



愛知県職員による刈り取り作業
(2011.10.13 / 豊橋市三河港港湾区域水路)



土木業者による刈り取りと運搬作業
(2011.10.13 / 豊橋市梅田川)



地下茎や種子による再生状況
(2012.6.4 / 豊橋市梅田川)



刈り取り後の再生状況
(2012.6.4 / 豊橋市梅田川)